

第8回 マックス『心のホッチキス・ストーリー』大募集

～毎日の生活の中で、「あなたが今、ホッチキスしたいこと」をお寄せください～

マックス株式会社では、“あなたが今、ホッチキスしたいこと”を募集します。

何気ない生活の中にある、「今の幸せ」「家族の絆」「友だちとの思い出」など、いつまでも心にとどめておきたい想いや出来事などをお寄せください。

特に優れた作品1点を『マックス・心のホッチキス大賞』とするほか、高校生・中学生・小学生以下の各部から『マックス・U-18大賞』として3点、優秀作品として『マックス賞』を5点選び、表彰します。

前回は、12, 897件の応募があり、初めて応募数1万件を突破しました。幅広い年齢層から作品が集まり、周りの人に助けられた感謝の気持ちなど、窮地に陥った時の「助け合い」大切さを綴った作品が多く寄せられました。募集概要は下記の通りです。

◇ 「心のホッチキス・ストーリー／あなたが心にとどめておきたいこと」募集要項 ◇

応募資格：どなたでもご応募いただけます。

募集内容：あなたが心にとどめておきたいことや、つないでおきたいこと。

(例えば、「今の幸せ」や「家族の絆」「友だちとの思い出」など、どんなことでも結構です)

募集期間：平成29年10月2日(月)～平成29年11月30日(木) ※当日消印有効

応募方法：原稿は400字程度(超過、未満可)。自作未発表作品に限ります。

表 彰：

マックス・心のホッチキス大賞	1点	ギフト券5万円とマックス製文具セット(4千円相当)
マックス・U-18大賞(高校生の部)	1点	図書カード1万円とマックス製文具セット(4千円相当)
マックス・U-18大賞(中学生の部)	1点	図書カード1万円とマックス製文具セット(4千円相当)
マックス・U-18大賞(小学生以下の部)	1点	図書カード1万円とマックス製文具セット(4千円相当)
マックス賞	5点	図書カード5千円とマックス製文具セット(4千円相当)

※マックス・U-18大賞は、18歳以下の応募作品が対象です。

応募先：当社ホームページの応募専用フォームもしくは郵送で受け付けます。

<当社ホームページの場合>

https://wis.max-ltd.co.jp/eng/story8_form.html

※平成29年10月2日 10時より開設

<郵送の場合>

住所、氏名、年齢、性別、職業、電話番号、ペンネームを明記の上、以下の宛先までご応募ください。

〒103-0027 日本郵便株式会社 日本橋南 郵便局留

マックス「心のホッチキス・ストーリー」事務局 係

※「日本橋南」と「南」が付きますのでご注意ください。

審査発表：当社にて厳正な審査をし、入賞者には直接通知し、ホームページ上に掲載いたします。

発表は平成30年2月下旬を予定しております。

著作権：応募作品の全ての著作権(著作権法第27条および第28条に定める権利を含む)は、マックス株式会社に帰属いたします。また、応募作品は、返却いたしません。なお、応募作品は、出版、映像化(映画・テレビ・DVDなど)、舞台化、放送、ネット配信などの方法で利用することがあります。

第7回 心のホッチキス・ストーリー受賞作品

【マックス・心のホッチキス大賞】 滋賀県 男性 16歳 ペンネーム: Ancio さん

電車の中には色々な人がいる、人に親切な人も、そうでない人も。

中学三年生の頃、一年間朝の通学の電車で、車いすの人と同じ車両に乗り合わせていた。車いすは通勤通学ラッシュの中で正直な話、大きすぎだ。だから乗り合わせた人の多くはその車いすの人を邪魔だと思っていただろう。僕もその一人だった。しかし、誰も何もそのことを言うことなく、しばらく僕は、ただ窮屈な車両にぼんやりと外を眺めながら乗ることになった。

あれは秋のことだっただろうか、雨が降っていて、いつもよりさらに車両に人が沢山乗っていて窮屈だった。車いすの人が降りる駅ではいつも駅員さんが折り畳み式のスロープをかけにきてくれる。その日も駅員さんが来て、スロープをかけていた。その時、雨で滑ったのか、人が多かったせいか、理由はわからないが車いすのタイヤが一人のサラリーマンの足の指を靴の上から踏んでしまった。すると、そのサラリーマンの人は怒鳴りながら車いすを蹴った。別に大して痛かったわけではないだろう、たぶんその人もずっと車いすの人を迷惑に思っていて、踏まれたのをきっかけに我慢できなくなったのだと思う。僕はサラリーマンの人に「やめてください。」だったか、正確には覚えていないが、それか、それに近い言葉をかけた。別に僕は車いすの人を守りたかったのではなく、トラブルが起こって欲しくなかっただけだった。サラリーマンの人は不機嫌な顔をしたが、その場はそれで収まった。次の日からも車いすの人とそのサラリーマンの人は同じ車両に乗っていた。僕は不思議に思ったが、いつも通り外をぼんやり眺めて乗っていることにした。

それから冬に入って受験が近くなった頃、いつもと同じ車両に乗っていて、車いすの人が降りる駅に着いた時、いつも来てくれる駅員の人がその日は来なかった。車いすの人は困っているようだったが僕はただそれを他人事だと思って外を眺めていた。するとサラリーマンの人が僕の肩をたたいて言った。「手伝ってくれないか。」すると、そのサラリーマンの人は車いすの片方を持った。何がしたいのか気付いた僕は急いで車いすのもう片方を持って、サラリーマンの人と車いすを持ち上げてホームに降ろした。サラリーマンの人は車いすの人に「前はすまなかった。」と謝り、車いすの人も「こちらこそ、ありがとう。」と言った。これははっきりと覚えている。その後車掌さんにアナウンスで急かされて僕とサラリーマンの人は車両に戻った。そして次の日からも今までと同じように電車に乗った。気のせいかもしれないが、電車の中では誰も車いすの人を迷惑に思っていなかったようで、いつもより車両の中は温かかった。

電車の中には色々な人がいる、人に親切な人も、そうでない人も。しかし、その中で人は親切にも不親切にも変わり、親切にも不親切にも人を変えることができるのかもしれない。

【マックス製文具セット】

○ホッチキス「Vaimo11FLAT」



○紙素材のクリップ「DELP」



○個人情報保護用ローラ式スタンプ
「コロコロケシコロ with レターオープナー」



○携帯型スタイリッシュ朱肉「エスパクトライト」



○穴あけパンチ「スクーバ」



《本件に関するお問い合わせ先》 **マックス株式会社**

営業本部 事業PRセクション TEL.03-3669-8115

報道に関するお問い合わせは、[こちら](#)まで